

医療法人白報会グループが 母親目線の産後院をオープン

在宅医療や介護事業などを手がける医療法人白報会グループの株式会社モディッシュが8月24日、産後院「Mammy Camp TOKYO BAY」をオープン。オープン前1週間にわたって、マスコミ向け内覧会を開催した。施設の目的や特徴などを紹介する。

→部屋はスタンダードルーム、スーベリアルーム、スイートルームの3タイプがある。写真はスイートルーム



核家族化の進行を踏まえ子育て教育も実施

産後院「Mammy Camp TOKYO BAY」は、千葉県船橋市に位置する大型ショッピングセンター内に開院している。産後院とは、経産婦の産後の健康と美容を管理するとともに、育児のアドバイスなども行う宿泊施設のこと。2011年ごろ、医療法人白報会グループの白昌善理事長が知人に「日本にはまだない健康関連のサービスは何かあるか」と聞いたところ、韓国の産後院が挙がったという。

白理事長は、韓国へ実際に産後院を視察に行き、その良さを実感。韓国にある産後調理院Mammy Campと業務提携し、約3年間の準備を経てオープンにこぎつけた。1カ月未満の新生児のいる経産婦であれば誰でも利用できる同施設では、産婦人科を退院した後に直行して宿泊できるようにオムツやガーゼ、利用者用の服などをすべて用意している。

部屋は3タイプに分かれ、各部屋には韓国から輸入した産後専用のビデが設置されているほか、施設内にはヨモギ蒸しなどができるハーブテント、足湯などの設備もあり、分娩で疲れた心身を回復できるような工夫が施されている。新生児一時お預かり室には保育士が24時間常駐。また、経産婦向けの化粧品やベビー用品の販売も行うなど、さまざまなかたちで母親をサポートする。料



↑利用者には、授乳しやすいようにデザインされた服をプレゼント

←無料でヨモギ蒸しなどのサービスを提供

金はスタンダードプラン(6泊7日)が29万4,000円から。

加えて多目的ルームでは、育児経験のあるスタッフによる育児指導とメンタルケアを提供する。

「核家族化が進むなか、育児について学ぶ機会が減っているので、授乳や沐浴のやり方などを教える子育て教育にも力を入れていきます」と、同社の松永久美子副社長は強調する。

オープンから半年を目標に軌道に乗せ、その後は近隣の産婦人科と連携し、退院後の経産婦の受け入れ先として存在価値を高めていくつもりだ。



副社長
株式会社モディッシュの松永久美子